

～あなたはちゃんと守っていますか～

今年もあとわずかになってきました。この1年間に私たちが培って得たものは何かあるでしょうか。物質的なものよりも私たちの心（内面）に目を向けて考えていきたいと思えます。例えば、目に見える家族ではなく、神が中心にあってなんでも相談できるような関係から助けを得られることがあったと思えます。これもすべて人間関係の中で得ているものといえます。前にも話したことがあります、成功する秘訣として86%は人間関係であるといわれています。残りの14%が努力などです。私たちが良い人間関係を得られたのでしょうか。しかし、私たちは窮地になると嘘をついてしまいがちです。そして嘘がばれた時、どのような態度をしてしまうのでしょうか。自分の行動から振り返ってみましょう。私たちはお互いに約束をします。しかしすべての約束を守っている分けではありません。私たちのしている約束は誰のための約束なのかについて考えていきたいと思えます。約束は人間関係を円滑に、幸せになっていくためには必要なことです。しかし、その約束は相手のためというよりも、自分のために約束している事の方が多いのではないのでしょうか。そして約束といえば聖書全体も約束です。それは神が人とした約束、人と人との約束、人が神とした約束を集約したものといえるからです。聖書の約束を守るものには祝福が届き、破るものには呪いが来るのが聖書が語っている事です。古くからの約束は旧約聖書となり、新しい約束は新約聖書と呼ばれています。旧約聖書は祝福と呪いの約束でした。誓った約束を一度でも破ってしまうとそれを補うものは命しかありませんでした。今の日本は約束を破ったからといって命を捕られることはありません。日本では、嘘をつき約束を破るよりも嘘をつき約束を破った人に対して危害を加える事の方が悪いからです。日常生活での嘘は罪に問われることはほぼありません。（マタイ5：33～48）ここでは誓ってはならないといっています。それは人が誓いを守らなくなったからです。旧約聖書には人が神を裏切ったことが書かれています。それによってイエスキリストが十字架にかかることになりました。人は裏切る事が当たり前になってきています。人は約束をします。そして約束を守ってくれと信じます、裏切られます。自分自身が裏切ってしまうこともあり、裏切られることがあります。なのであまり大きな事ではなくなりました。そして日常的に嘘をつき、嘘がばれたときの行動も想定しています。なぜ嘘をついてしまうのでしょうか。それは相手の偽りや相手を持つ自分への評価を守るためです。それは自己中心の土台から出てくるものです。土台が自己中心でありその上に出てくる約束ならば、意味がありません。聖書を見てみますと本来の約束とは自分のためではなく、相手のためである事が分かります。聖書の中には神のための約束は1つもありません。すべて私たちが悪魔から守られるための約束ですと聖書は教えています。約束を破ってしまうというのは相手に対して愛がないからです。今日の取り上げた聖書箇所は約束（誓い）から愛の土台に基づく行動へと内容が変わっていきます。そして最終的には神が完全であるように私たちも完全であるようにしなさいと言われていました。神は私たちが愛しているから約束をしてくれています。私たちがこの愛を増し加えていっているのでしょうか。この1年間で内面的な収穫を得ているのであれば私たちの土台に愛が増し加わり、赦しつづけているのです。赦さないのであれば、人は1人でいる方が楽です。裏切られる事がなく、憎しみ、罵り、嫉妬する事が無いからです。しかし、その人と一緒にいるのであれば、愛に基づき赦すことが必要です。「約束→信じる→愛し→赦す」というサイクルが出来上がります。神は私たちが裏切ろうとも、愛すると約束してくれました。旧約聖書の時代の人々はイエスキリストを待ち望んでいました。それは神が約束してくれたからでした。待ち望んでいたイエスキリストが自分の想像していた姿ではなかったために、憎しみゆえに十字架につけてしまいました。私たちがしている約束の多くは「自分のための約束」であって相手をして約束しているのではないのです。しかし、私たちは自分のために命がけで愛してくれた方がいて、その方を迎えるクリスマスの時期になりました。私たちは愛を受ける側から流す側へと変化しなければなりません。私たちは周囲から何かしてくれるから頑張るではいけません。（ローマ1：28～32）私たちがとても耳の痛い箇所です。このように歩まないようにしなければいけません。なぜこのようになっていくのでしょうか。それは裏切っても罰せられる人がいないからです。自分の行動に対して正しいかを判断して伝えてくれる人がいるのといないのでは大きな違いがあり、生きていく上で大事なことです。私たち自らが相手の事をどれだけ想って、何のために行動するのかということ。それができるのは私たちのために命をかけてくれた方が私たちを見ているからです。自らが悪い事をしているという意識があり、悔い改めができているのであれば良いのです。しかし開き直り、人は絶対に裏切るものであるとあきらめてしまうことはよくありません。①約束は愛からです。自分のためにする約束では意味がありません。7を70倍するまで赦すことを言われています。どんな事があっても赦す事を選んでいきますでしょうか。そして信じ続けているのでしょうか。信じる事を止めてはいけません。なぜなら神は赦し続けてくれます。愛し続けてくれるからです。裏切ったペテロやユダにも悔い改めるチャンスはありました。しかし悔い改めたのはペテロだけでした。私たちは愛に基づいて約束をしているのでしょうか。相手のための約束をしなければなりません。自己中心を捨て、愛に根ざした約束をしていきましょう。約束するとき、この約束は自分のためなのか相手のためなのかを確認しましょう。相手のためであれば、例え破られてしまっても赦す事ができます。私たちが相手への愛に基づく約束をしましょう。②偽りを捨てる。約束を破ってしまうのはできない事を約束するからです。心の中に偽りがあるのです。心がない事を約束してしまうからです。相手に合わせてしている行動です。これは自分にも相手のためにもよくありません。偽りを捨てて、愛の土台に基づき行動しなければなりません。人にはそれぞれ違った弱さがあります。しかし外見だけを繕った行動しても心の中が偽っているのであれば意味がありません。ですから私たちは自分に偽らないと決めましょう。何が正しいことなのか、間違っているのかを判断しましょう。それができないと、相手をした約束はできません。偽りを捨てていこうとするから、世の中の人と、クリスチャンは違いがあります。私たちが一歩ずつでもキリストの身丈にまで成長する努力をしていきましょう。③赦し。人と約束や契約をする時、それが果たされない事も理解しています。それでも赦さなければいけません。その時、黙して赦すではありません。クリスチャンは愛を持ってその人と話し合いを持ち、赦す事をしましょう。相手がその問題と向き合う事ができるように話さなければいけません。愛の反対は無関心です。私たちは問題を目の当たりにしたとき、見て見ぬふりをしたり、あきらめてしまっただけではいけません。解決にむかって向き合わなければいけません。お互いに赦すためにはちゃんと向き合っ、話し合わないとは赦せません。それがなければ、私たちの内側には愛はありません。問題を見つけたら、赦す事を前提に話し合っていきましょう。様々な人間関係がありますが、私たちはすべての人を愛し、誰からも愛されるようになりましょう。イエスキリストをお迎えをするこの時期、もう一度思い出し、十字架にかかるために生まれたイエスキリストの姿と照らして考えていきましょう。私たちが、人を「愛する、赦す、信じる」気持ちを持ってイエスキリストをお迎えしていきましょう。間違っただけの行動をした時、それを見ている方がいます。その方の前に来たとき、責任転嫁せず、偽らずに認め、悔い改めていきましょう。これが私たちが神とした約束です。私たちの中にあるプライドや傲慢を捨て、自らが自らの罪を認めて悔い改めていきましょう。クリスチャンとは自分の罪を知っている人です。自分の十字架を負って歩いていく人です。道を踏み外した時も自らが悔い改め、修正ができるようになりましょう。開き直る事が無いようにしましょう。私たちの心にある偽りを捨て、赦していきましょう。そしていかなる時も愛に根ざした行動をしていきましょう。（要約者：平澤 一浩）